

楽しみ方は1つじゃない ニセコ町・有島記念館

有島記念館 学芸員 河野 紫杏



有島記念館外観

ニセコ町の文学館

札幌市から南西へ車で約2時間、「蝦夷富士」とも呼ばれる羊蹄山の麓に位置する町がニセコ町です。住民基本台帳人口は2026（令和8）年1月末現在で5,685人、そのうち約20%である1,223人を外国人住民が占めます（「北海道ニセコ町ホームページ 人口と世帯」より）。

ニセコ町の主要産業は農業と観光です。冬には山間部に降る良質なパウダースノーを求めて国内外から多くの観光客が訪れます。

今回紹介するのは、ニセコ町・有島記念館です。JRニセコ駅から車で約10分、羊蹄山を一望する眺めが良い場所に位置しています。「有島」とは明治・大正期に活躍した白樺派の小説家である有島武郎ありしまたけおのことで、有島記念館は有島の作品や思想、実践などを伝える博物館です。

有島は1878（明治11）年、東京生まれ。学習院中等科を卒業後に札幌農学校（のちの北海道大学）へ進学、1908（明治41）年から札幌農学校の後身である東北帝

国大学農科大学で教員を務めました。では、なぜニセコ町に有島武郎の記念館があるのでしょうか。それは有島家がニセコ町に農場を所有していたことが始まりです。

有島家の農場

明治中期の北海道は、交通事情の悪さや冬の豪雪により開拓が遅れており、それを進めるため1897（明治30）年に「北海道国有未開地処分法」が施行されます。これは未開の国有地を無償貸付し、開墾に成功すればその土地を無償付与するというものでした。この時有島の父・武たけしは現在当館が位置する場所を含む土地の貸下げを出願。そして、1908（明治41）年に名義人を有島武郎に改めたことで有島農場が誕生します。

しかし、有島はアメリカ留学でクロボトキンの『相互扶助論』に影響を受け、小作人の貧しい暮らしの上に成り立つ自らの恵まれた境遇に思い悩みます。そして、1922（大正11）年に小作人が農場の土地の所有と運営を共同で行うことを前提に無償解放を宣言しています。1924（大正13）年には小作人たちにより営農さ

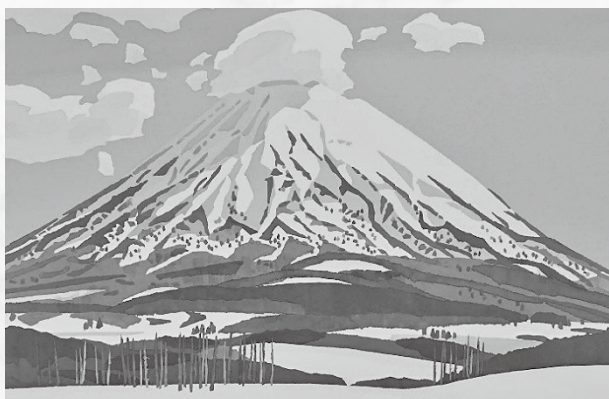
れる「狩太^{かりふと}共生農団」が設立しましたが、終戦後の占領軍による農地改革の対象となり、1949（昭和24）年に農団は解散、農地はそれぞれの私有地となりました。

有島記念館の始まり

農団の解散後、団員は有島の思想と実践を後世に伝えるため「有島謝恩会」を設立。旧農団事務所に有島や旧農場の資料を保管・展示して、初代の有島記念館となりました。この建物は火災により焼失してしまいましたが、展示品のほとんどは無事に搬出されています。1963（昭和38）年7月には再建運動がおり、謝恩会などからの募金もあって2階建ての有島記念会館が建設されます。その後、建物の老朽化や謝恩会による維持管理が困難となり、ニセコ町が有島武郎生誕100年を記念して1978（昭和53）年に有島記念館（現在の常設展示室部分）が建設され、それまで有島謝恩会が所有していた有島や旧農場の資料などが引き継がれて、保存・公開が行われています。

有島だけじゃない有島記念館

有島記念館では先述した有島に関わる資料以外の展示も行っています。その一つ、藤倉^{ふじくらひでゆき}英幸の作品は年間を通してご覧いただけます。四季折々の北海道の風景画をはり絵で描く作家であり、当館では約1万点の作品を所蔵しています。1948（昭和23）年に現在の岩内町で生まれた藤倉は、高校卒業後に製菓会社などに勤務しながらイラストやグラフィックデザインなどを独学で習得し、1974（昭和49）年に「イラストアンドデザイン工房フジクラ」を設立しました。そして80年代



藤倉英幸《春を呼ぶ羊蹄》はり絵2012年制作

より「切り絵」の作品を発表。80年代後半からは「はり絵」を用いて北海道の風景画を描きはじめ、自身のライフワークとしています。その作品は菓子や牛乳パックのパッケージにも用いられ、多くの人々に親しまれています。

有島は、東北帝国大学農科大学美術同好会「黒百合会」の創設に関わったほか、雑誌「白樺」でロダンの彫刻を紹介するなど、北海道の美術史にも足跡を残しています。その美術に対する精神を継承するため、1989（平成元）年より毎年10月に中高生を対象とした「有島武郎青少年公募絵画展」を開催しています。

また、有島記念館ではJRニセコ駅隣接地のニセコ鉄道遺産群で、降雪期を除いて蒸気機関車「9643」と旧新得機関区転車台、夏季は引退したリゾート列車「ニセコエクスプレス」を公開しています。秋には「ニセコエクスプレス」の車内公開や転車台の回転ショーを行い、多くの町民や鉄道ファンが訪れる一大イベントとなっています。

ニセコの有島記念館へ

このように、有島記念館は小説家・有島武郎だけの博物館ではありません。文学に興味がなくとも美術や鉄道の展示、外の景色などを楽しむことができる施設です。年間を通して町内で採れた野菜や牛乳を用いた食や豊かな自然を体験するアクティビティなど様々なコンテンツを楽しめるニセコ町ですが、その1つに有島記念館も選んでいただけると幸いです。

開館情報などについては有島記念館のホームページや公式SNSにて確認の上ご来館ください。



アリシマエナガ館長も皆様のご来館をお待ちしています